

2026年4月21日

DRIVING MAGIC × NATS 日本自動車大学校 Race Report

OHLINS CIVIC NATS 鈴鹿で 3 位表彰台獲得

— 新たな学生メンバーとの初陣、チーム一丸の走りで表彰台 —



ENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第2戦 SUZUKA 5時間レースが行われた。72号車 OHLINS CIVIC NATS は新学期を迎え進級した新たな学生メカニックとの初陣ながら、予選2番グリッドから粘り強いレースを展開し、ST2クラス3位表彰台を獲得した。

開幕戦もてぎでのトラブル再発防止策を徹底し鈴鹿に乗り込んだ72号車だが、新メンバー体制での走り出しはセッティングの調整に苦勞する場面もあった。連日部品交換等の重作業が続く中、チームは粘り強くマシンを仕上げていく。土曜日の公式予選ではAドライバーの金井がクラストップタイムとなる2分16秒142を叩き出し、Bドライバーの山野も2分16秒112でクラス3番手タイムをマーク。合算タイムでクラス2番グリッドを獲得した。

日曜日の決勝は気温23度、路面温度48度というこの時期としてはやや高めのコンディションの中、12時にスタート。72号車は序盤から着実に燃費走行を行い、中盤以降は稼いだ燃料マージンを基にペースを上げていく戦略だ。しかし金井から山野への最初のピットインで給油ホースが折れ曲がるトラブルが発生。給油できないままコースに送り出す形となり、翌週に緊急ピットインを行い給油をやり直した。このロスにより順位を落としたものの、終盤には2番手を走行していた743号車 Honda R&D Challenge FL5 がガレージインを喫するなどライバル勢にもアクシデントが発生。72号車は3人のドライバーの安定した走りで挽回し、5時間を走り切りST2クラス3位でチェッカーを受けた。

新たな学生メカニック達にとって初めてのレースで表彰台という結果を手にしたチーム。シャンパンファイトに湧く表彰台を見上げる学生達の笑顔が印象的だった。次戦は前年王者として迎える富士24時間。チームはピット作業の精度から今一度見直し、連覇に向けた準備を万全に整える。

大会概要／レース結果

大会名	E N E O S スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第2戦 SUZUKA 5時間レース
日程	2026年4月18日～4月19日
ゼッケン 車両	No.72 OHLINS CIVIC NATS
ドライバー	金井亮忠／山野哲也／野島俊哉
予選結果／タイム	ST2クラス2位／A:金井 2分16秒142(1位) B:山野 2分16秒112(3位)
決勝結果	ST2クラス3位



山野哲也

「セッティングに苦労した一戦だった。タイヤ鮮度や路面状況によりステアバランスが大きく変化した。環境変化、マシンサイドの両面から要因分析をしなければならない。ピット作業面でも精度アップが必須だ。厳しい条件下ではあったが表彰台に上がることができてよかった。新しい学生たちの士気も上がったと思う。次の富士24Hでは2025年に引き続き連勝できるようにしっかり準備したい。」



金井亮忠

「今回は厳しいレースとなりましたが、結果としては3位表彰台を獲得することができ、嬉しく思っております。新年度になり進級間もない学生にとっては初レースで、何も分からない中での参戦となりましたが、この週末で大きな成長を感じることができました。次回は富士24時間レースとなりますので、技術力と同時にチーム力もアップさせ、早く優勝できるチームになれるよう努力をしていきたいと思っております。」



野島俊哉

「セッティングが定まらず苦しい場面もありましたが、チーム全員で乗り越え表彰台を獲得できたのは良かったです。新しい学生メカニックの皆さんにとって初めてのレースで3位表彰台という結果は、きっと大きな自信になったと思います。次戦の富士24時間はシリーズタイトル争いにおいて大事な一戦です。しっかりと準備を整え、連覇を目指して戦います。」



豊福大樹

「今回のレースはセッティングにも悩みましたが、3位表彰台という結果で終えられたことにホッとしています。新たな学生たちも進級間もない中でのレースとなりましたが、レースウィークの中で様々なことを学んでくれたと思います。次戦は昨年優勝した富士24時間レースになるので、連覇を目指して更にチーム力と車両パフォーマンス向上させていきたいと思っております。」